

新編水滸畫傳

二編

八



21
875
18

神書佛書鬚書國學
繪本年中新古賣買
手遊いふく法々々
御流又了れトハ上

依後町三休橋西入
河内屋孫云衛

新編水滸画傳卷之拾八

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三〇年
十一月十日

晁蓋梁山を小泊と奪ふ

目説七葦の豪傑は林冲と送り客館へ入て。未だ須臾あらず。いふ
一人の小嘍囉王倫が命を殺して。客館へ入り七人を見えて云。今日王
法の豪傑と水陣の亭へ邀て。酒宴と弄んと。宜くす。來際と
晁蓋が云。少刻伺公致さんと。使の小絨と回。呉用に伺て云。
呉先生今日の系を。吾凶如何。呉用歩笑て云。保正公と安ん
ま。今日の系を。保正必。嵩山陣のま。成る。一。桑端なり。林教頭
已に王倫と殺さんと。思ふ。公。万。一。も。林冲。疑。ま。の。一。系。は
三寸不燧の舌と。林冲が。心。と。励。一。宗。と。奪。す。の。云。と。侯。活。の。内。に

新編水滸画傳卷之拾八

合せし。終に林冲せし。王倫と害す。危き身迎ふ。刃を隠して
 持し。只素より。心で顔と。扱ると。お尋と。定め。各齋く。力を保せ。多
 晁蓋。られ。と。夢て。心中。小娘。己に。辰の。下刻。に。おて。山陣。の。邀の。使。凡
 三。度。不。及。ぬ。び。時。晁蓋。ホ。七。人。の。各。懐。中。に。刃。と。藏。し。松。末。己。不。完。り
 乃。れ。宋。方。自。ら。容。敵。に。お。て。お。迎。ふ。小。城。ホ。七。索。の。轎。と。捲。て。弛。来。り。乃。ち
 七。人。の。豪。傑。と。傳。て。来。し。ぬ。亦。ち。に。水。陣。の。前。不。入。る。各。輿。と。下。七。人。の。寄
 比。方。と。顧。る。に。其。風。系。毫。に。罕。る。不。く。王。倫。杜。遷。林。冲。朱。貴。ホ。六。親。自
 亭。の。外。不。出。て。お。迎。へ。亦。ち。に。延。て。亭。に。上。り。賓。主。の。礼。早。く。坐。已。に。定
 ま。る。王。倫。は。口。人。の。既。飲。杜。遷。宋。某。林。冲。朱。貴。ホ。と。共。小。虎。の。方。不。坐。せ
 列。ぬ。晁蓋。ハ。六。人。の。豪。傑。吳。用。公。孫。務。劉。唐。三。阮。兄。弟。ホ。と。共。に。右。の
 方。に。坐。せ。列。ぬ。け。時。大。ひ。に。酒。宴。と。役。け。各。盃。と。執。て。お。勅。め。酒。已。に。飲

巡。小。ひ。り。し。晁蓋。先。王。倫。不。對。し。て。義。と。交。へ。盟。と。結。ぶ。ん。と。お。求。む。王
 倫。是。と。夢。て。左。右。の。延。善。ホ。も。及。ま。ら。只。世。上。の。宋。侯。と。竹。と。反。吾。一。敵。及
 顔。と。愛。し。り。具。用。私。に。林。冲。と。多。に。林。冲。眼。と。睥。睨。て。一。向。王。倫。と。睨。
 怒。る。顔。及。漸。面。不。露。れ。り。酒。已。に。凜。う。て。午。の。下。刻。不。及。り。晁。王。倫
 左。衣。の。小。袖。不。命。し。て。携。出。よ。と。云。れ。ば。小。城。不。命。と。奉。と。輿。と。取。ん。て。
 走。り。入。晁蓋。ら。れ。と。夢。て。何。と。携。へ。来。ぬ。と。疑。い。く。思。ふ。不。良。久。し。ふ。し。と。
 一。人。の。小。城。大。盤。の。中。に。五。挺。の。大。銀。と。盛。て。持。け。出。る。王。倫。刺。刃。と。起。て。
 晁蓋。不。對。し。て。云。々。の。来。幸。の。に。法。豪。傑。の。来。除。と。怒。り。く。も。山。陣
 元。來。地。窄。く。屋。ぬ。る。れ。ば。い。う。ん。ど。法。の。豪。傑。と。取。め。や。ん。や。系。聊。は。後
 と。傳。て。後。と。表。に。冀。く。い。は。限。と。笑。納。し。お。ひ。て。何。方。不。入。り。も。大。陣。と
 驚。と。移。し。て。人。を。と。撲。く。駭。め。あ。へ。御。ら。ば。系。使。と。以。て。貢。と。獻。り。乃。ら

晁天王の幕下に属すへしとて被一盤又挺の銀せりて晁蓋小婿
晁蓋が云ふ事久し山陣も賢と扱死士と募りてと時及び垂不
来て麾下に属せんことを欲はれは既飲未素と用ひおはんハ又素何
ともするては只宜しく別と告て山せよとせし餞の湯ハ受して清う
まゝ素乏しとて之とも路費ハ多く腰に纏ひぬるお急さうに不足のては
早くく迷に湯と收拾めぬ王偏が云何由多落後と碎しあや。素
徳の豪傑とあめりてハ山陣への程少く屋希有り由多必くハ後
及つて豪傑ホと困苦せりめんてと素して節せりて必ず得つて恨
身とさるれといまご云も羅くするに林冲双眼と活と瞬冥と大死ふ
乳つ云王既飲汝ハ我始て山小より一肘も糧少く屋少ありとて我
年小欲まじとてしるが今日晁保正ありあふふも又此のてき云と云ハ是

何の道理をやけ時兵用林冲小對して云く林教頭且怒と息ぬ人
素も来て山陣の好と壞よと大い不可今日王既飲礼とて我素
と回しあふとされが我素少も恨る有り既飲必ず舊日の好と傷めて王
既飲と淨いあふとされ林冲云王偏が云ハ笑の内ハ刀と遂言清く
行ひ濁り我今日彼と焼くは王偏是とめて大いに怒て云汝禽獸何ぞ
かくのぞれ云れとるや林冲も亦慈悲わく汝がぞれ小人文も通せは我
ふも違せだして豈独山陣のまともんや兵用別ち晁蓋小向て云来ら山小
より及つてあ既飲の好と壞ひぬ宜く急に山せりてと晁蓋ら七人已
座と立んとくれば王偏がいく且暫く扱へ由宴早てゆりあふでけ時林
冲は懐中より刀と取出し垂に王偏と辱めて跳ぐる兵用子迷もとりて
かのお方の形顔と振りなれも晁蓋劉唐急よきて虚しく林冲と振り

往んとて王偏呼つて云林冲率尔の王とるるは是れ其用故云林冲と社
 狂と云林教頭怒と休ま公孫猪猪と云林教頭必ぞ残害の爲に王偏呼と
 害して大義と壞ひあさとあるれ既小二の便らきて杜遷と擲ふ既小二の宋万
 と支り既小二の宋万と防ぐ法の小賊どもは光宗と日と大か驚き只壯
 死と柔れたる許りの林冲已に王偏と擲へて大か罵て云汝は是れ落第の
 貧儒よりいとも幸ひに杜遷小助けられ尚且宋大友人の救ひ俵て今町の
 一と山時と役するふわたりや汝も宋大友人我を薦めされし時もこれ小
 背んと欲し今日又法の豪傑の来りありふ是も是も赶回さんとするらんや
 汝は是れ愛と嫉と妬と憎む伎人之汝とせし何の時の用あり申ん今汝が
 首と刎んに好天命と知れとも已に刀で閃る杜遷宋万宋三三人の
 首と刎解んと思ひんとも豪傑らに社住られ勅を働くとするは王偏呼は

勇力無双
 鬼蓋

時逃んとせし机に鬼蓋劉唐とんと避る王偏呼と見して大か作天に怒り去
 のとく面を變りて多智に呼りて云多は我を暖の若たは何れ小五やふく来
 て我と助けよ我もくの公援られとて去るに王偏と救えんじはれ林冲が猛
 勇小怖れ一人も近付ば林冲王倫と捉へて再三と罵り遂に刀を奉て王
 偏が首と刎り衣れりるを王倫へせしして強盜とほ今日林冲が多小既
 早ぬ鬼蓋宋七人林冲が王偏と害しと見て各懐中より利劍とを出し
 て多小持威ひ堂くくして捉居り林冲は王偏と捉げ大義に呼りて云
 なるは報りても呉儀不乃ふものわくは怒り王偏と捉例とせ杜遷宋万宋三
 られと見て大に怖れ壯しく地上に跪て云多は素く心と傾けて法の豪
 傑に候ひ御大馬の旁と施すは鬼蓋ら氣に三人の尻杖に起す其用
 自ら第一位の倚子と亭の中央に役け再三林冲と推して坐せしめ乃

林中 男女 林中

新編 久遠事 存卷 二



男女 交授
いふ 和ら
放て 不

林中 王倫と斬て山陣の
座位十一人を定む



新編 久遠事 存卷 二

呼つて云々、今日林冲を以て山陣のまゝに伏せざるを、即ち
 その如く、林冲を以て呼んで云々、呉先生差入、素今日の事、
 徳の豪傑を義を以て、不仁不義の佞人と殺除、堂素敢て、
 位と呉んや、呉先生を以て位と素に、懐て山陣のまゝに、
 英雄小笑、素今日、今死すとも、位に坐する、
 列位素に、後いひ、
 人、
 の椅子を、
 林冲、
 甚の言、
 次、
 知ん

○梁山泊の義士晁蓋と素

諸も林冲、
 義と、
 我今、
 いん、
 之我、
 あや、
 世ふ、
 我晁、
 おく、
 再、
 冲、
 て、
 前、

あやも多し。智もなく。術もなかり。今日山陣に天の幸ひと賜て法の豪傑大
義小聚りし。六む奮日と曰。ドゥ。以。軍。兵。用。先。生。と。詰。て。軍。師。と。乃。山
陣の兵糧と當りし。二の椅子と譲る。兵用云。来。村中の小傷
胸中。小。又。世。と。濟。ひ。人。と。救。ふ。の。女。也。粗。孫。兵。が。兵。書。と。讀。と。い。ども。未。だ。若
て。半。息。の。微。功。あ。り。い。ん。ど。敢。て。け。職。小。尚。ん。や。林。冲。が。云。事。已。に。形。不。到
れ。り。必。謙。退。し。ゆ。ふ。と。勿。れ。と。て。再。三。兵。用。と。推。て。第。二。位。小。坐。せ。し。兵。用
拜。と。能。以。遂。に。け。儀。不。お。後。ふ。林。冲。又。云。公。孫。先。生。の。第。三。位。に。坐。し。ゆ。見
蓋。是。と。受。て。忽。ち。林。冲。小。對。し。て。云。る。林。既。然。何。ぞ。か。の。ご。く。讓。り。を。果。て
再。三。自。り。り。ゆ。り。我。必。一。位。の。座。と。も。退。く。し。林。冲。云。晁。天。王。差。り。豈。受。る。ハ
以。や。公。孫。先。生。の。芳。名。普。く。に。海。小。流。る。況。や。能。と。用。ひ。て。計。に。富。む。又。風
と。呼。ぬ。と。呼。の。法。推。し。ゆ。公。孫。先。生。に。及。ん。や。公。孫。務。身。云。来。敵。風。面。と。行。る

文 語 釋

の法を曉はと。い。ども。世。と。流。る。の。女。ま。一。豈。敢。て。林。教。既。の。儀。不。從。り。ん。や。敢。り。ハ
林。既。然。自。り。第。三。位。小。坐。し。ゆ。林。冲。が。云。今。遭。友。軍。と。破。り。多。し。良。法。推。し。ゆ。見
生。に。及。ん。や。我。必。一。位。の。座。と。も。退。く。し。林。冲。云。晁。天。王。差。り。豈。受。る。ハ
これと拜し。ゆ。ふ。と。勿。れ。と。て。再。三。兵。用。と。推。て。第。二。位。小。坐。せ。し。兵。用
拜。と。能。以。遂。に。け。儀。不。お。後。ふ。林。冲。又。云。公。孫。先。生。の。第。三。位。に。坐。し。ゆ。見
蓋。是。と。受。て。忽。ち。林。冲。小。對。し。て。云。る。林。既。然。何。ぞ。か。の。ご。く。讓。り。を。果。て
再。三。自。り。り。ゆ。り。我。必。一。位。の。座。と。も。退。く。し。林。冲。云。晁。天。王。差。り。豈。受。る。ハ
以。や。公。孫。先。生。の。芳。名。普。く。に。海。小。流。る。況。や。能。と。用。ひ。て。計。に。富。む。又。風
と。呼。ぬ。と。呼。の。法。推。し。ゆ。公。孫。先。生。に。及。ん。や。公。孫。務。身。云。来。敵。風。面。と。行。る

万八身十位小坐一朱突八身十一位小坐以梁山伯是より十一人の豪傑山階
 とちり山前山後総て七八百の小城ありけ日跡くは雁前小玉て物と色盡く
 尤右小分れ立列る晁蓋衆人小對して云る者るごとく今日林既成我と掛け
 山階のまじし兵学究と軍師とし公孫孫と白く公権と執て林既成ホト
 修小陣と堂の汝ホも各々職小依て山前山後の事と堂より必と疎失す
 こゝろ共小力と竭し心と目とよして堅く大敵とちれ衆人盡く斬首して
 命と交ぬ晁蓋又山陣の尤右に屋と建て既成の眷族と安居せりありけ日
 晁蓋被奪ひえりる十万貫の金銀珠玉并に京東家内小行へまゐる金銀
 財宝多くこれを教して小城ホに分ちよけ時且牛と殺しるを宰て天地祚
 明と祭り大に酒宴と設て共に悦ひ笑し一連に数日酒とぞめふり晁蓋又
 具用ホと商儀して堅く柵と排陣と列ね鎗刀弓矢箭甲等を造りしめ

考る官軍と防んぶる計とをなすなり林冲慙く晁蓋が勅許とるに能
 公として私の所ありけ公の中に是と悦び一日晁蓋小答て云る山の上
 より晁蓋妻子と山階に迎へんと思ひし者王偏りるに流率秘するに
 未と沙汰に及ざりし之妻子は今東京に流れてまゐるが久しく消息とも
 考てま死せと知りて是と喜ぶこと元源一晁蓋が之賢才既小堂春あて
 東京に在り何ゆゑ子と見せ迎へらるや汝快々去勞と稱へて後と馳去る
 と迎へ山階小引えべし林冲源く是と謝し即日書券と被へて友人の小城
 と已に東京に寄りたり小城遂に東京に越え五月まで山陣小飯り乃ち
 林冲小告て云る晁蓋と晁蓋に東京の城下あり殿帥府の前と張教既の
 家と存り夫人の事と問るに夫人は言ふ尉が由小婚姻の事と苦められ自ら
 盗れて死しぬ已に寸載と経ぬと張教既再三是を嘆とぬひ一月以病

死しぬめると家内も独綿兒と申んも下女刺りたるは是れ頃目夫と
 招きて家内不贅夫婦も後世の當と務ゆと之れ又隣家近村中倅委
 く官にれれ総て人皆かくのてく焼りぬ林冲是と皆潜逃して海を
 流し最これと悲り鬼蓋ホこれと皆て共に帳物として嘆きたり。扱社より山陣
 への只毎日入ると練器械と酒も友軍とまへさ儀とる一日法の既於聚
 義廳不在。事を議して居る所に二三人の小城慌しく山の上て報し
 乃六濟州府の友軍凡一千餘り大小の船に二百艘小舟乘て今已に石
 碣村の湖中に屯しぬ。鬼蓋これと皆て大ひに驚き即ち軍師呉用に向
 て云如何なる策とめて友軍と破らんや。呉用亦笑て云兄長是と憂ひも
 され来自らこれ小舟も古よりいつり水来る時に出とめて掩ひを来る時
 舟とて迎ふもわ。此別共家の者なり。来りの計とれぬとて。又遊三阮

兄弟に計と授てかくのごくと低言。又林冲劉唐も同じく計と授
 て。這般々と云合又杜廷宋万も計と示しり。扱濟州の府尹。國練
 使黃安并一人の捕盜官に兵一千餘り與て梁山泊に居向しぬ。
 晁蓋使黃安已に人ると飲して舟小舟旗と懸へ。鼓と撃て金沙
 灘に馳來る。湖金沙灘も近づきり。舟の遙の水面上り三艘の舟漕來る。
 黃安は船と見えに毎船小舟一人の漢子あり。舟の櫓と搖一人の船の既小立
 ぬ。既入舟紅巾と戴。舟は紅舟襖と着せり。三艘の船の既小立ぬ。漢
 子船て一やうの装束と友軍の因これと機強する者あり。黃安小舟と云るに
 此三艘の船既小立し三人の漢子一人の阮小二一人の阮小一一人の阮小七
 之黃安が既にかくのてくん。汝未我を力と保て彼三人を擒るべし。必ず
 走ししむるもれけ。討あ迎り。口又十艘の船。一々に吐と衆ん。大ひに威の

駕を棄りし。那三艘の船を見て、舟の櫓を扯て漕回す。黄安自ら、槍を
 擡て前を走り、大旗を振り下知り、汝ら三艘を擒るべし。汝ら三艘の船、
 擒る者あり、我を恩賞せよ。彼三艘の船、一向漕行する。友軍の船
 後に漕て追来り、礼矢を放つ。恰も西の隅に、三阮を見て、急
 に船の肉に入り、一片の毒鼠の皮を取出し、乃是と恐り、礼矢を擡り
 ぬ。友軍が法を、早く先と争ひて追蒐来る。黄安、二百里の湾港を、
 ざる。親方の使船、飛ぶ。揺る一人の小卒、黄安、小卒を、
 必だ、湾港の肉に入り、なると、前日、柯清に従つて、肉に入り、
 親方の急、彼等、殺され、うとも、黄安、舟の内、逃げ、這く、命
 と、脱れ、逃回りぬ。黄安、同て、海、舟に、彼が、計に、陥る。縁故、い、うん
 と、わ、彼、小卒、着て、云、来、向に、船を、めて、け、肉に、漕入、幾、里、作、船、
 遙向より、二艘の小船、漕来りし。每船、八人の漢子、乗る。と、黄安、力、併せ
 て、追蒐、赤、二、三里、も、と、水面の、方、う、七、八、艘の、小船、棒、を、列、ね、て、棒、来、り。
 各船の上、に、幾、ぞ、の、人、あり、て、射、に、矢、を、面、の、う、射、け、危、う、也、也、也。
 急に、船、を、回、さん、と、せ、う、も、系、来、湾、港、の、内、窄、く、し、を、退、難、を、及、し、船、
 黄安の上、に、二、三十、人、馳、来、り、大、ひ、う、麻、の、索、を、用、て、友、軍、を、牽、張、り、乃、水、面
 に、横、へ、て、親、方、の、船、を、遮、り、住、し、由、を、系、を、索、を、切、掃、さん、と、船、を、め、ん、と
 せ、い、に、又、層、の上、の、人、數、一、百、に、本、を、面、の、う、に、お、り、し、え、ま、本、を、中、で、揚、
 ぐ、多、う、き、い、時、系、亦、皆、船、を、弃、て、水、中、に、跳、入、皆、く、葦、の、内、に、躲、れ、居、て、そ、の、
 後、船、を、地、を、負、て、逃、回、り、ぬ。黄安、これ、を、び、て、大、小、船、を、己、の、の、く、ん、の、
 長、趕、する、と、る、ん、と、別、白、旗、を、揮、動、し、て、彼、の、船、を、振、り、呼、て、云、る、に、彼、船、は、賊
 と、逃、し、て、休、て、舟、を、回、せ、法、の、舟、を、吹、て、忙、し、く、漕、回、さん、と、せ、
 然、に、彼、

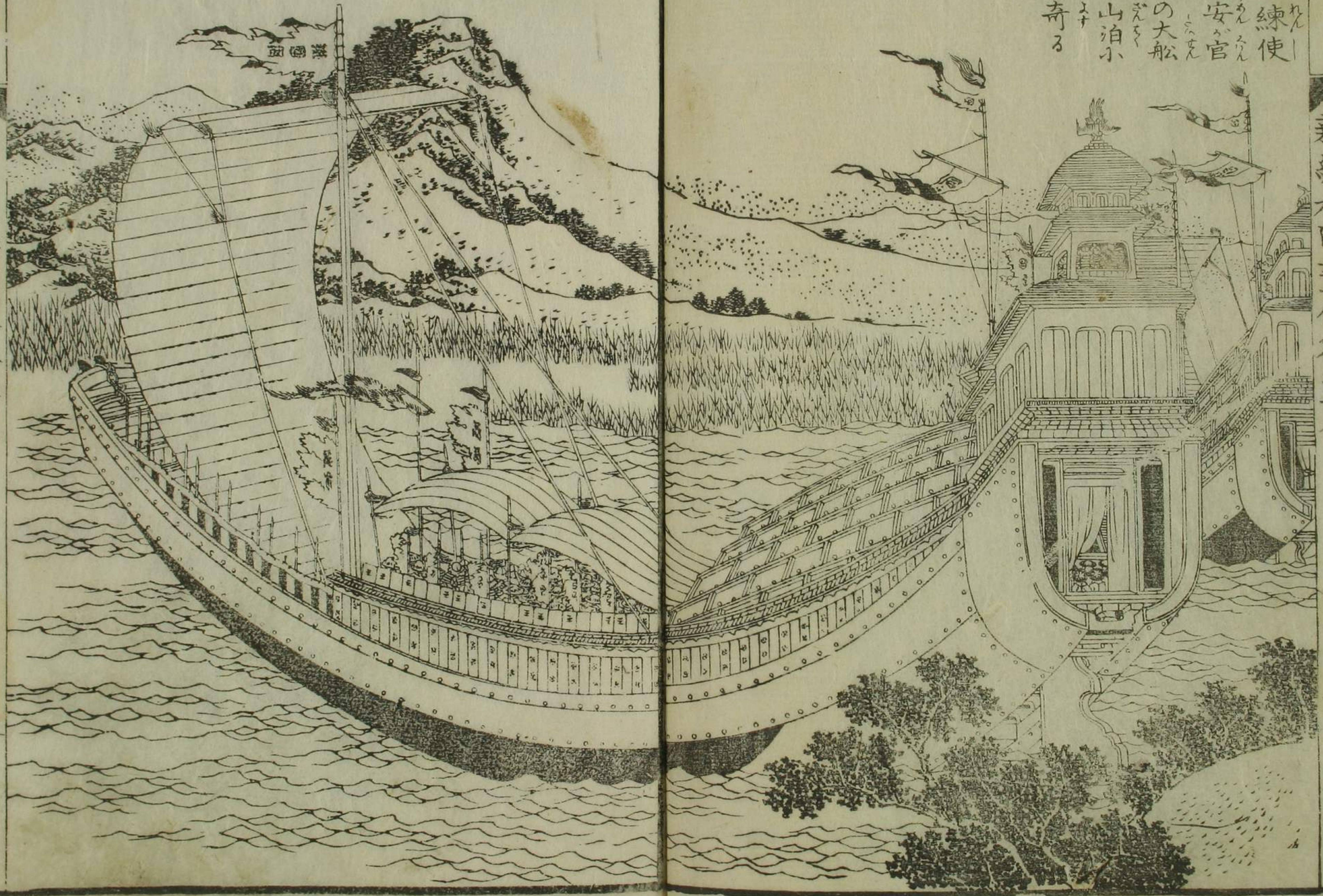
三艘の船又十餘艘の船を引て黃安が背後に繞り出每船に五六人の漢子乗て各ふるは旗號を拿はる胡哨を吹て飛ぶくは逃る黃安をみて急に船を撻逐へ飛んとする時忽ち荊葦の内に砲の響大い小窓く黃安の方を看に船後方太鼓を打の旗を豎列ねり其内の人殺いま形と為さこれに勢敵何と云殺びと云は黃安心中大い悲ひ船より船に背後より趕來り船の上の漢子も急をうたひて云は黃安おくそを遣して同れをれ黃安これとめて旗を消急ふを以下知して船を港に揺往ぬ小い黄安の灣港の内より又十艘の小舟漕出船を射とと撻へて散くに射るも友軍矢に中て死するを殺と知は黃安忙がしく使船に乗移して逃るもが船首を回して後を顧るに友軍等盡く皆追撃せしれ船も逃べきたさうられむ半に水中に飛入り黃

安が船を引逃延し一時又敵の内より一艘の小船撻と忙しく撻て馳來り船の頭小劉唐立出て大なる鉄の鉤索を以て黃安が船と鉤住れ劉唐忽ち身を躍して黃安が船に跳乗遂に黃安を捉て大い罵て云汝賊友撻れとさる汝をこゝに匹夫いんぞ心しを眼を以て我を看ととばんやと怒て岸の上に扯上り此時友軍亦水性を徹て水中に跳入る水の中へ殺され水中に跳入るも船の上を擣れたる見蓋公孫揚の小旗又六十人乗て飛る二三十丈と外して山辺に赤出垂れ來て法政候と赤連ふは日の旗に活捕の友軍二百餘人其外盛甲亦とれさるハ子殺せとる見蓋公孫の旗の旗の人数を殺せと山崎に馳回り劉張公孫にれ集て各戦功を賞しぬ見蓋彼黃安を撻めと船小相着又金銀財宝を散して小旗亦に恩賞を行へり此日敵の戦馬然て六百餘匹と奪え

湖官軍
兵等皆
死之達

團練使
黄安官
軍の大船
梁山泊小
攻奇る

新編水滸畫傳卷二十八



竹浦人并其傳

一乃林冲が功之湾港の内にて友軍と討たし三阮兄弟共に杜遷
 宋方が功之黄安と活捉し劉唐が功之張の既山陣の軍初に快
 と悦んぞ乃牛と殺しと宰大いに酒宴と役け飲めとを傳り
 那る所小賊忙しく馳來て報どる山の下に朱既飲今役を馳
 ぬ晁蓋を捉て乃復と吸入て同なる朱既飲何の事とて汝と馳るや
 侵の小賊跪て云る今膏十餘人の商客早急より驚でるはそ所
 法もさる由朱既飲急にえと山陣小流をさる晁蓋を項目已に
 金帛殆と使そ。乃次用と缺の時晁蓋を存ひの流を推し我を
 人数と引て馳向ふとや三阮兄弟を引て曰朱既飲命に懸しと
 馳下りて晁蓋大に悦び汝等兄弟向ふ實可めん然れを只心と
 用ひ急と速に往て子と來れ我又汝より劉唐と馳くお意を

みるめん若汝兄弟はまづ急に裝束と改めよ三阮命と傳て精ひ別百餘
 人の小賊と引て急ひ馳下り遂に晁蓋お張の既山陣に別れて山と
 突と出處に朱既が店へ來りり晁蓋は三阮兄弟を引つものや
 として又救急の爲とて劉唐小一百餘人の人数と与へ再三命と
 必只軟に材物とを棄れて交しと人の命と害をさるな劉唐命
 と傳人数と率して下りり晁蓋は已に三更の時を過ぎてお休られし何の消
 息とありしに心中さく憂へ慮り又杜遷宋方に又十餘人と與へ乃助けの
 爲とて山の麓よりり晁蓋は吳用公孫勝林冲らと共に酒を飲
 に曉小なりし所一小賊忙しく馳來て吾を報とて云三阮既飲已に
 二十餘車の金銀材物をひに又十匹の驢を引るお見蓋これと
 且言て云若て人と殺せしや小賊若て云彼高人ホ我が事猛勢を

見て大怖れ乃ち車隠るホと抄撒く。然とも顧ずして法。只一個
 の人とも殺さる。晁蓋これぞ夢。大脱斜る。我嘗初て山陣にあり
 人を害せし。と宝をばり。乃ち山の福。且汝も寝るを悪まん。とて。乃ち一
 控の白銀を出て。與へり。晁蓋又兵用公孫孫林冲ホと傳ふ山。下り車
 に金沙灘にありて。法の既。法とお違ふ。法の既。ハ車。驢馬ホとく。小城
 ホに牽せて。馳回り。乃ち金沙灘。小於て。晁蓋ホ。お見え。皆大に。悦びぬ。
 晁蓋急ふ。一人の小城と馳て。朱貴を邀へ。法の既。と。り。再び山に
 上り。遂に。張義。願。小於て。朱。に。酒。宴。と。設。け。彼。棄。兵。を。令。銀。杖。宝。を
 二。に。分。き。一。ハ。庫。小。收。めて。後。日。の。軍。用。に。使。へ。一。分。と。り。て。悦。び。嬉。む。と。宝
 極。り。は。法の。小。城。ホ。に。身。ま。で。流。石。飲。砂。と。傳。り。晁。蓋。云。我。嘗。向
 小。兵。災。を。脱。れ。難。と。避。ん。と。の。と。り。て。け。山。ホ。来。り。乃。ち。王。偏。が。帳。下。に。於
 て。一。小。車。も。あ。り。ん。と。を。男。ひ。つ。る。に。豈。料。ん。や。林。既。既。我。と。ゆ。け。て。山。陣。の
 身。と。も。あ。り。支。度。の。悦。び。と。ぬ。ぬ。ま。一。ハ。友。軍。に。務。て。許。多。の。人。を。玄。船
 と。り。其。二。ハ。今。又。朱。平。の。令。銀。杖。寶。と。ぬ。ぬ。是。皆。林。教。頭。の。助。に。出。て
 又。法の。既。既。の。方。之。然。に。感。激。不。忘。ぐ。は。法の。既。既。が。云。是。故。て。兄。長。の。福
 分。は。倚。て。か。ぐ。の。と。り。得。来。何。ぞ。よく。幸。か。力。の。る。に。而。い。の。ん。や。晁。蓋
 蓋。喜。悦。と。り。て。飲。砂。已。に。晚。小。於。て。罷。り。し。ふ。晁。蓋。張。義。願。と。退。て。歇
 けり。

○鄆城縣の月夜小劉唐と走しむ

翌日又法の既。張義。願。小。集。会。せ。り。晁。蓋。乃。兵。用。に。對。して。云。り。ハ
 我。嘗。七。人。の。性命。に。於。て。宋。押。司。朱。豹。既。而。人。に。救。り。れ。ぬ。古。人。の。云。恩
 と。知。て。恩。と。報。せ。ざる。ハ。獸。於。禽。を。あ。さ。も。如。す。と。今日。の。晁。蓋。安。樂。何。れ

より来るも皆是宋押司朱豹の賜に近日の肉に金銀を以て
 乳物と別人と鄆城縣に馳て一札を述べし是第一の要の事也又
 彼自傍今已に濟州の牢中にあり我宋必ず濟州に馳て集ても救
 ひ出す也其用云見長必ぞ是と憂ひおそる宋押司の大恩を謝
 せんづるとは素已に不存なり近日一人の既成を告げし又彼白日鼠を救
 ん二人は明の人と濟州に馳り上下の汲人小補給をまじめそ便機
 と縁て遂に彼を救ひ出すべし先軍一商強して糧と給へ船を造り
 軍装と製へ寨柵を設け盛甲と懸へ弓矢と楯山陣と嚴密に依て
 友軍と支ん計とせむべし晁蓋が云既小かくのどくは令軍師の良計
 小後ん小述にれと調へるんや其用は時法の既成小命じて山陣の備
 ホ一く是と告げむ扱濟州府の府尹は黃安が部下の士卒に命と

脱れて逃ぐる者と以て乃ち梁山泊の動靜と具し盤問らん
 彼士卒答て云友軍よく殺され黃安已に活捕れぬ梁山泊の豪傑ホ
 十分の猛雷うて近き款するを強且其路窄くして船のを退自中
 うらぎり也いよく戦ひ歩負て城と捕方と叶は府尹れと告て大子登
 此刺蔡老師の使を對して云るは我は度老師の爲に城と捕へんと欲
 初河清と捕盜の親察とて馳りあらず許多の人ると其い何清一人命
 と脱れ久りしをも二の耳を割落れを病今に痊は私宅に在てお息に
 不以此は度又圍練使黃安をひに高府の捕盜友に云と云へて梁山泊
 密に其に是又強賊らに歩破られ黃安は擒と有り今梁山泊の獄
 中に縲ると尚且友軍と殺されんと其教と知れ又残る許多と賊子
 ゆる再び城と取しいるる斗と以て城と捕へんやと大いに憂ひは

日又濟州府の府尹新に習ふは、先沙汰ありしが、日果して新
 友當府に死すべし。一人の義局友壯、來て府尹に告て云、今城の東門
 接友亭上に少停新友の到來ありと。飛報せしむる。府尹、これぞ、速
 る小宗直ちに東門の外に出てお尋ね、新友已に接官亭の前まで来てあり
 一。府尹、是を延て亭上に登り、一礼畢つて、坐已小室、われ、彼、新友、別
 相廷より携へる尹智の文書と見せしめて、府尹に呈して、流り、乃、梁山泊の
 強盜、彭、獨、概、と、之、も、これと平がことと云て、彼、も、素、に、笑、く、即、ち、素、に、令
 由ひて、速、小、府、尹、に、告、り、官、濟、州、府、と、も、つ、て、急、に、械、と、捕、ふ、さ、う、一、招
 命、之、を、俄、の、勅、遣、り、し、先、達、て、南、府、に、飛、報、到、來、さ、る、も、及、び、ひ、ま、り、
 府、尹、是、を、告、て、中、救、う、べ、乃、彼、文、書、と、披、て、これと、讀、り、即、時、小、新
 友、と、尋、て、濟、州、府、に、傳、り、酒、宴、と、役、て、新、府、尹、と、款、待、し、酒、已、小、數、盃

巡り、られ、舊、府、尹、先、新、府、尹、を、告、て、云、ら、い、今、殺、使、臣、の、礼、物、と、奪、ひ、取、り、
 兇、賊、晁、蓋、十、七、人、の、奪、今、已、に、梁、山、泊、に、上、て、右、と、猛、威、と、有、り、素、來、彼、亦、と
 平、ら、し、て、能、は、さ、う、一、已、に、於、子、笑、へ、方、と、な、れ、茶、太、師、唾、擲、り、あ、あ、の、物、れ、も
 梁山泊の英雄、智勇、足、つ、て、要害の險地、に、據、り、直、二、等、守、の、こ、に、
 わ、り、已、に、友、を、ま、て、件、多、の、友、軍、と、殺、さ、れ、ぬ、と、彼、河、清、黃、安、亦、が、次、弟、一
 二、伎、細、に、傳、り、られ、新、府、尹、これと、告、て、大、に、愕、然、て、い、ろ、十、分、の、て、い、ま、も
 あり、と、思、ひ、つ、る、に、及、て、り、く、の、と、く、猛、勇、と、據、ひ、や、す、と、忽、ち、面、交、云、の
 一、と、成、て、公、中、に、思、ひ、乃、の、素、を、師、這、般、の、と、と、告、知、れ、ら、る、故、に、我、を、
 捲、卷、て、け、れ、に、つ、じ、あ、ら、ん、け、れ、強、兵、猛、將、と、稱、せ、し、め、れ、賊、を、捕、へ、ん、と、
 儲、重、斌、却、て、け、れ、を、劫、奪、り、去、り、綿、と、借、人、と、云、り、我、何、を、以、て、これ、を、商人、や
 として、只、願、躊、躇、し、て、憂、ひ、愁、ふ、舊、府、尹、翌、日、旅、帳、と、准、仗、て、遂、に、新、府

尹子別て東系にありり。扱新府尹ハ東系に臣。時ハ只七人の事。商客の
 ありハ維ハ梁山泊に上りり。何の捉へん。わんとして已子着被て世に別り
 暇日府尹梁山泊猛雷の形母と若知る。て大子驍の恐れ乃ち後軍の軍友ホ
 高議で軍と招き言を實を以て集め糧と屯し梁山泊の豪傑ホと防ぎ捉
 ふ。各使と催し所日文書と以て近州鄰郡子觸と也。各軍一力と
 係せ緘と捕ふ。一と命じり。は時鄆城縣の知縣ハ文書と見觸と
 早速宋江と高俅とを云り。は度の緘情を大より汝等文書と以て支
 碓の村里まで嚴に梁山泊の監緘と防ぎ。必も急る。とる。て遂
 文書と修へて宋江と興の宋江文書と以て心中に悲ひる。晁蓋ホ七人の
 事いんぞりくの上。大罪と犯し。や況や女軍と殺し。何清と傷ひ。今
 又黃安と活捉梁山泊に海垂と是乃九族と滅す。罪子齒りむ止む。を

ぬずしてこそ初ハ初し。ん。それと法度の上。不於てこれと鏡し。と茶一
 友軍ホ小捉り。とわ。必大法不。り。我何ぞ。これと及びん
 やと。一向憂愁。小逼りぬ。然れ。宋江知縣の命を。た。仍て自ら止む
 とぬす。遂に貶書後司張文遠に作せて。彼文書と法の村里に下して。
 嚴に觸と也。り。已。て宋江の縣裡と出て。又十歩斗り。仍て。下
 背後に人あり。押司くと。ゆり。宋江と。て。何の一人の
 と。回して。これと。乃。是。と。て。活。と。王。婆。の。一人の
 老婆と。引て。後。に。宋江。別。問て。い。王。婆。我。と。何。の。と。わ。
 王。婆。忙しく。答て。彼。老婆。と。指して。云。押司に。若。や。死。と。あり。は。老婆。の
 本。是。一家。三人。東京。より。引。れ。來。り。し。人。之。り。が。一人。の。女。の。名。と。問。婆。答。と
 中。父。圖。公。系。來。能。也。と。唱。を。れ。由。急。彼。女。幼。幼。時。より。これ。と。學。び。吹。簫。歌

葬等の事。初て洋の曉し。年まに十八歳うて。郎君及好し。向
 に親子三人。山東に往て。女と友人の家に。事しめん。うられ。本山東の地。
 知人。さね。あや。これと。撃。觀。老一人も。う。遂に。落。魄。して。以。鄆。城。縣。小
 徘徊。し。り。多。如。小。彼。圖。公。不。孝。少。そ。昨日。病。死。い。ね。け。圖。婆。又。是。也。葬
 ぶ。さ。力。有。して。已。に。急。苦。小。逼。り。乃。我。と。頼。んで。女。と。せ。公。小。出。さん。と。う。り。られ。た
 け。前。急。に。安。貼。し。け。け。い。押。司。一。片。の。仁。心。と。齒。を。ひ。て。彼。小。の。棺。擲。と。あ
 らん。や。宋。江。が。玄。已。に。形。わ。い。汝。ら。友人。我。に。從。て。來。れ。街。梢。の。酒。店。に。お。て
 書。等。と。稱。へ。乃。汝。に。与。へ。て。縣。裡。の。陳。三。郎。が。家。小。を。一。つ。の。棺。擲。と。賒。ら。ん
 只。う。げ。屍。骸。と。葬。る。使。用。銀。五。や。圖。婆。等。て。我。流。落。て。旅。者。に。わ。る。と。も。あ
 棺。擲。と。お。る。銀。五。も。わ。い。馬。を。能。使。用。の。使。わ。ん。や。宋。江。が。玄。が。使。用。の
 銀。五。も。繼。ひ。棺。擲。も。も。葬。る。と。能。ま。い。我。又。汝。に。十。五。の。銀。と。あ。む。じ。

汝。宜。し。く。以。銀。と。以。て。使。用。を。よ。圖。婆。に。れ。と。せ。て。大。に。悅。て。玄。押。司。が
 か。の。と。く。憐。と。き。ぬ。が。別。け。恩。天。地。と。等。し。て。齒。と。汲。る。ま。を。忘。れ。や。宋。江。遂。に
 一。錠。の。銀。と。え。出。して。圖。婆。小。と。へ。て。い。く。汝。い。書。と。携。て。陳。三。郎。が。家。に。往。ふ。必。ず
 棺。擲。と。お。る。と。わ。ん。と。て。遂。に。別。れ。て。飯。り。り。這。圖。婆。書。等。と。お。る。と。あ。む。じ。

垂。に。陳。三。郎。が。家。小。を。て。棺。擲。と。賒。利。旅。者。に。持。せ。回。て。死。人。と。葬。る。る。一。日
 圖。婆。宋。江。が。家。小。を。う。留。小。と。交。し。恩。義。を。謝。し。家。内。で。う。に。一。人。の。女。も
 あり。一。圖。婆。公。申。小。怪。し。く。思。ひ。回。て。玄。婆。小。同。て。玄。宋。押。司。の。家。う。一。人。の
 女。も。三。さ。り。乃。る。が。夫。人。と。娶。り。あ。る。や。玄。婆。が。い。く。宋。押。司。の。家。に。宋。家
 村。小。わ。れ。も。あ。る。夫。人。と。あ。る。と。今。押。司。と。成。て。以。紙。に。任。し。多。く。乃。ち。是
 旅。者。に。宋。押。司。稟。性。仁。心。深。く。あ。る。人。に。棺。擲。と。施。し。人。の。貧。苦。を。救。ひ
 多。く。我。向。に。汝。の。艱。難。を。被。押。司。小。告。り。定。て。あ。る。夫。人。の。娶。り。あ。る。ま。い。

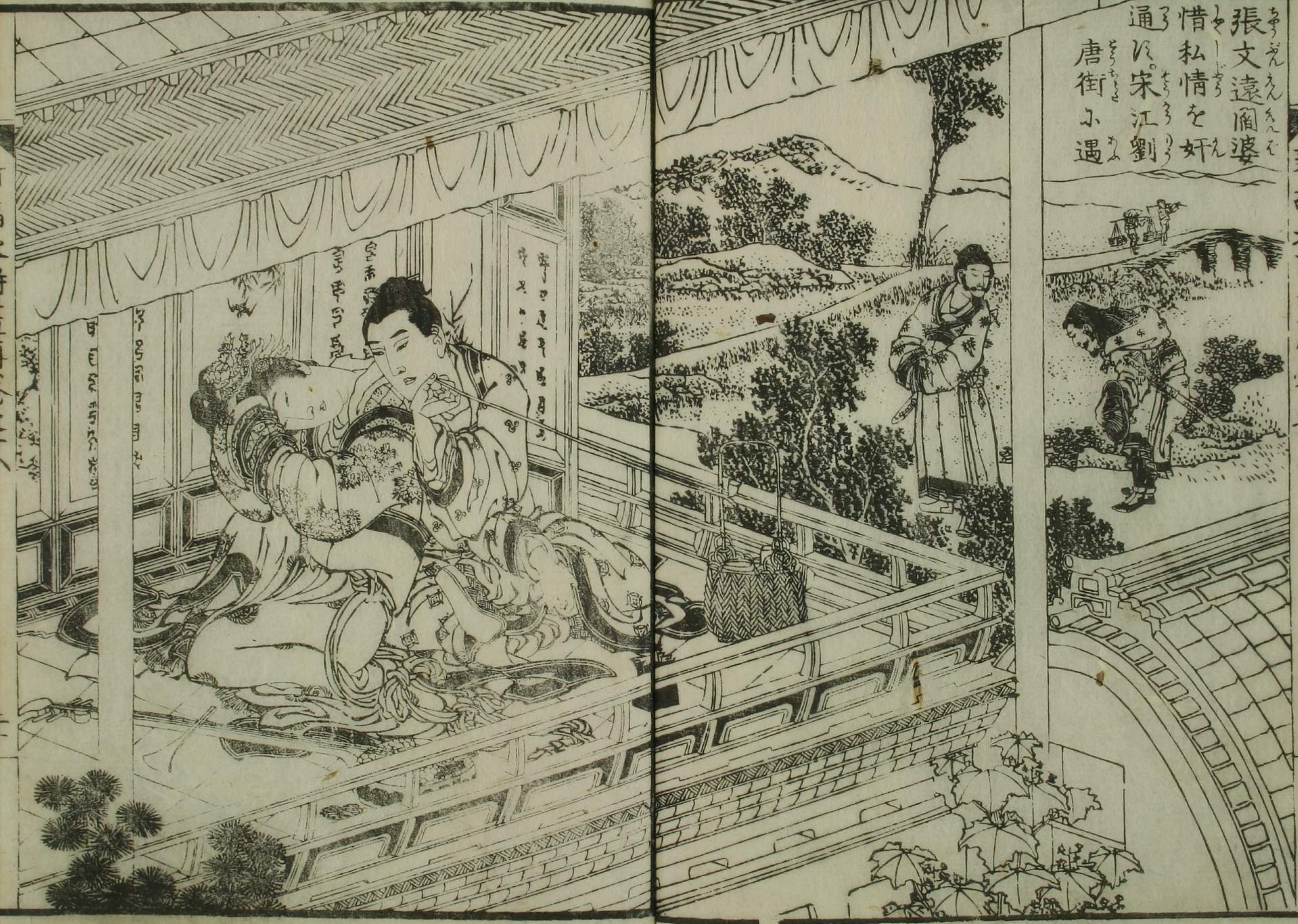
同婆之我女婆惜ハ、鄙方親友あり、時小吹簫歌舞の王。一見と悦び、我女
 々に在りし時ハ、幾なり、の故も人彼と喜子いせんとも、我女嫁に求りし
 かな、唯き人の女なる由急ぎ、需に應じ、され、今日おは、此れに流落る。宋押
 司の愆恩と慕り、これ、宋押司我女と求んと欲し、我女速女と宋押司に
 事へし、御大恩と報ず。王婆我女に、此事と宋押司小若かりんや、王婆是
 と笑て、後り同日、翌日宋押司小見えて、同老婆ハ言と若再三言し、言と
 巧みして宋に、と擲振られ、宋に、承允せざりし、とも、王婆小言と、錫され、遂に
 去、後小愈して、同婆惜と、娶りて、妻と、乃縣裡小宅と、借て、同婆親子を
 経し、め多く、金銀、珠玉と、送て、そ、うに、色を、せり、已し、て、半月、終り、終り、と、彼
 婆惜、忽ち、格別に、粧して、既、玉の、髪と、帯、一、方、は、終の、衣と、着し、對に、周
 流、ふと、見え、み、初、同、宋、江、者、に、來、同、婆、惜、と、一、面、に、在、て、娼、と、言、り、乃、る、が、

日と、逐て、漸く、味ん、じ、ぬ、け、ゆく、い、い、ん、と、な、れ、宋、江、の、系、是、有、名、の、豪、傑、う、て、
 色、乃、ま、十分、荒、さ、る、也、同、婆、惜、が、心、合、ず、け、り、あ、人、ま、に、睦、し、て、一日、
 宋、江、後、司、貼、書、張、文、遠、と、引、て、同、婆、惜、の、心、を、て、飲、酌、と、催、し、乃、彼、張、文、
 遠、が、人、を、れ、と、小、強、と、呼、喚、せ、り、け、張、と、せ、れ、ゆ、て、眉、淺、く、目、秀、齒、白、く、脣、紅、
 う、て、を、飛、さ、り、め、て、風、流、り、況、や、彼、少、年、の、時、より、也、花、街、に、遊、び、娼、門、者、
 樓、小、戲、れ、妓、女、嬌、子、の、風、情、を、び、小、吹、簫、歌舞、を、く、これ、と、さ、し、ぬ、の、同、婆、
 惜、も、え、來、曲、と、よ、唱、ひ、舞、奏、る、と、よ、め、て、法、方、に、俳、洞、し、る、娼、女、の、流、れ、
 今、一、目、強、と、見、て、忽、ち、心、と、動、し、乃、に、張、と、も、又、婆、惜、と、思、ふ、已、に、十分、の、意、
 り、の、只、顧、眼、と、い、ひ、情、と、送、り、け、時、宋、江、淨、半、に、立、り、れ、張、と、別、言、と、い、て、婆、惜、
 と、戲、れ、張、も、周、來、し、づ、れ、樹、動、け、身、揺、が、れ、水、渾、ず、と、い、ふ、こ、う、と、い、て、
 の、こ、う、張、と、來、て、婆、惜、が、心、と、動、せ、り、け、より、あ、人、ま、に、十分、の、情、め、り、し、張、

三々後ハ時、來テ故々宋江ト稱ス。此時宋江ハ又うつて婆惜ガウヘニ行
 さらし由一婆惜ハ私ニ是ヲ歎ヒ強ニ有るにこれヲ奪テ法活トモつ
 友人不義の情とつらら。の強ニ來來及及の這人なりし。この婆惜百
 金と忘れて。娘びとの方と制限す。強も一たび得ず。二たび奪せばと
 りよとありるに。宋江忠義強ニおて。婆惜ガウヘニ至テ酒と砂しゆく
 ついふくくのすね。及てと惹いづね。彼婆惜強ニと情とつらとて。より後の
 初夕。強ニうすとのをむふ。宋江とと。毛頭も忠義なり。宋江は一月の
 内と多く一日もあつて。われを彼婆惜多く。な理をたとせ。宋江違ふ宋
 江ハ系女のとをむと。公小掛とと。いふより。孫疎んじと。婆惜ガ家小むと
 を稀ニ。強ニ遠婆惜と情と交る。恰も漆と膠のどく。此にて。曉
 一處に在テ。擅小戯れ。ふ左右のりんう。悪く皆。さる一人もさる。けけ

法頗る。宋江が耳に入。うらうらも。宋公孫半は。佐ト。まは疑みて。心中に思ひ
 なる。婆惜ハ母と父母の匹配。やふ。書室にの。され。彼り。我と嫌。我又集
 と慕ふ。ま。後に。悲と起。何の益。あ。ん。向後。彼ガ家。往す。ん。却て
 是心。清う。ん。と。約。莫。一。月。修。り。往。ざ。り。な。れ。を。岡。老。婆。ハ。私。に。宋。江。が。有。る
 がる。と。慈。ひ。毎。度。使。を。弛。て。邀。へ。う。ら。も。宋。江。ハ。只。公。事。繁。さ。は。お。て。往。ざ。り
 たり。又。一。日。宋。江。書。に。集。む。と。縣。裡。と。出。來。り。乃。茶。坊。に。坐。して。茶。を。用。ひ
 居。る。如。に。一。人。の。大。漢。子。既。ふ。白。毡。の。笠。と。戴。さ。身。ふ。黄。紙。の。衣。と。着。て
 腰。に。一。挺。の。刀。を。帯。し。脊。骨。よ。一。ツ。の。大。包。袱。と。背。一。身。に。汗。と。流。して。此
 へ。走。り。來。り。宋。江。に。見。て。何。者。を。れ。を。奪。に。及。ん。で。か。く。急。に。弛。り。や。い。う
 さ。ぬ。怪。し。ま。糖。末。と。思。ひ。茶。坊。と。ま。き。彼。漢。子。が。後。と。趕。て。慕。ひ。乃。約。莫
 已。又。十。步。耳。不。至。て。彼。漢。子。既。と。同。く。と。宋。江。と。下。目。着。る。が。只。願。立。住

張文遠 閻婆
惜私情 奸
通 宋江 劉
唐街 小 遇



て躊躇に宋江も又彼漢子と見て何と申ん面と感徳する振も。
 歎に心中小思ひなす。彼漢子が面々慥に感徳する志あるが。何れのおて。
 系と云ふなりやと。再三考ふ。日とく躊躇に彼漢子も尚又既高
 りと。宋江と申すも。恰も事わらげ不見えられた。又あの河をも掛るに違。
 宋江は光系と見て。孫権にこそ是又ありに同ふともあるなり。彼
 漢子傍の篋既舗ふ立傍て。同傍へ彼漢子より有りなり友人の誰なるや。
 待招きて云彼友人。及時兩宋押司之彼漢子是とて。悉に宋江
 希ふ來て懇懇小接を回て云る。押司は宋と感徳するや。宋江は云下
 の隠くに感徳するや。云われども。未だそ系と云ふ。何と知らば彼漢
 子が云。那くは押司宋が為ふ一步と移し。若しは死にあり。宋江は云。尸
 にかゝる。我豈釋し。と云やと。彼漢子と云。一軒の酒店に在て樓の

上に坐り。未だ坐も定まらぬ。彼漢子忽ち身を翻して。抱きたる。宋江は忙し
 く礼を還して云。是下の本非人なり。先ず姓名を報ゆ。那漢子が云。大
 恩人の何れ系と見忘れぬや。宋江は云。我も幽々不識徳と申すに記し。うども。
 實に是下のことと忘れり。然るに。若しは。昔も。そ彼漢子が云。宋江は是向に
 晁蓋が敵を。押司の意を。教とぬ。乃ち押司の救と爲り。一命を脱れ。る。
 赤髮鬼劉唐之宋江。是とて。大い驚きて云。是下いんぞ。かく大いなりや。
 下下友。亦見尤われ。なり。忽ち大事と惹出。ぬん。何故に。知れ。不來り。多し。
 劉唐は云。不佞已に再生の恩と爲り。由一死と怕ず。持て來て。押司と
 仿ひ。宋江は云。晁保正。這一向恙る。や。是下。今此に。あり。なり。定めて。
 晁保正に。頼れ。ぬ。ひつ。ん。劉唐は云。晁保正。那日。押司の大恩と爲りて。の。後。
 是。ち。に。梁山泊。小。屯。つ。て。山陣。の。ま。と。る。れ。ぬ。吳。學。究。の。軍。師。と。り。公。孫。勝。

も又吳學究と共に曰く山陣の兵糧を執林冲源く来り七人と憐んで彼王倫を殺し再三山陣を以て晁保正に譲りぬ山陣も又系来社遷家系来史とやて三人の取成あり今茲て十一人の取成山せり小紙於合七八百人を集められども糧を蓄しとるを教を討らぬ晁蓋に及ば兵用以下の際於系小史を以て於に只顧押目の大恩と云んとて亡く違ふ。此ゆへに系晁保正の命と交て書簡并に黄金一百両と携へ来て押司及び系全雷横支取取と謝事と先書簡と宋江小史の来史に書簡を投て着早りしは乃腰に掛方招文袋を穿て書簡を入劉唐又黄金と取出して宋江送る宋江云是下先は金子と包をとも毎は是と包しあつ小酒店のことめと時て酒と出ぬ程劉唐にすむ飲酒を催するは時日も漸く西山小落まで晚よりられ劉唐又金子と包して宋江に送るんとせし如に宋江忙しく攔住て云是下宜しく我言とせし人晁保正今初て山陣に上りれしとわれが定て金銀の使利大しと何程行ふとも不足を平し系へ系来社内に貯る錢杖の蓄りて缺用あり先は金子山陣へ拿回り又吳日りに我要用の時ゆへに全身宋江と山陣小史して借利あり扱彼来史も貯る銀杖の蓄りて必ず金子を送るに及ばぬ晁保正の厚意我密に彼小史に傳へり又彼雷横ハ系保正と逃しることを知るれば晁蓋金子と送るに及ばず況や彼ハ博奕を好むるをるれば金子と送るに必定賭場に拿出し物ハ系来社と惹出てもめん變しては金子と送るに我まは是下と私宅に受て款待せし思へもあ人あて是下と誠懇とさハ大事忽出あんと曾ハ月夜も定て明りるらん一ヶ月光も係し回らぬ法の取成も適く一札と傳へり也必そ一刺も

も又吳學究と共に曰く山陣の兵糧を執林冲源く来り七人と憐んで彼王倫を殺し再三山陣を以て晁保正に譲りぬ山陣も又系来社遷家系来史とやて三人の取成あり今茲て十一人の取成山せり小紙於合七八百人を集められども糧を蓄しとるを教を討らぬ晁蓋に及ば兵用以下の際於系小史を以て於に只顧押目の大恩と云んとて亡く違ふ。此ゆへに系晁保正の命と交て書簡并に黄金一百両と携へ来て押司及び系全雷横支取取と謝事と先書簡と宋江小史の来史に書簡を投て着早りしは乃腰に掛方招文袋を穿て書簡を入劉唐又黄金と取出して宋江送る宋江云是下先は金子と包をとも毎は是と包しあつ小酒店のことめと時て酒と出ぬ程劉唐にすむ飲酒を催するは時日も漸く西山小落まで晚よりられ劉唐又金子と包して宋江に送るんとせし如に宋江忙しく攔住て云是下宜しく我言とせし人晁保正今初て山陣に上りれしとわれが定て金銀の使利大しと何程行ふとも不足を平し系へ系来社内に貯る錢杖の蓄りて缺用あり先は金子山陣へ拿回り又吳日りに我要用の時ゆへに全身宋江と山陣小史して借利あり扱彼来史も貯る銀杖の蓄りて必ず金子を送るに及ばぬ晁保正の厚意我密に彼小史に傳へり又彼雷横ハ系保正と逃しることを知るれば晁蓋金子と送るに及ばず況や彼ハ博奕を好むるをるれば金子と送るに必定賭場に拿出し物ハ系来社と惹出てもめん變しては金子と送るに我まは是下と私宅に受て款待せし思へもあ人あて是下と誠懇とさハ大事忽出あんと曾ハ月夜も定て明りるらん一ヶ月光も係し回らぬ法の取成も適く一札と傳へり也必そ一刺も

早く乃と急ぎあふ一劉唐をてめて云るへ。押司の厚恩をて平た放
 晁既再之不佞小命して為儀を務りりる。若是と後を以て拿回し
 めるふふ一必其定を責を為るべし。解くへ押司とて交々宋江を晁保
 正の命令既小かく嚴する。我軍一々也管を修へて送らん。是下れと持同
 めへあつば少しも是下の過るそのは。劉唐は時尚苦々に宋江を強て救ぬ
 めんく一それを強て受ずして。不迷酒肆の直に晁等と假具一々也簡と修へく
 劉唐にふく劉唐は系來直村の勇まされ。宋江初釋すと着て早晁
 宋江に強く一とと料知。遂に也簡と強て。其令と再い包袱小は乃
 別と告て宋江に釋して云るへ天色も已に晩也。晁等夜に馳て山路
 に司りりへ。宋江が云を強りあく急ぎ交我敢て是下をぬめりさ
 ると。明くこれと急一交劉唐が云宋押司の厚恩を以ていんぞ救せざる

へ山路にぬり晁既解くは釋に強り強せんとて乃ち又宋江を
 して其人遂に酒店の樓と下り直に街の口あり。六月及已小よりぬは
 時八月中旬も。秋光一入明之。宋江又劉唐がと携ていつは下自
 強次の間と小心也。まひては辺に來りあふ。必也。吾用之は処は為小
 下友多く徘徊も亦され。別して用むまこと。我故去遠く送るま
 る別は辺も別也。劉唐とれと強て云るへ。押司寫くは取より同り
 め人素も急に連夜に馳行りさんと。遂に別れ梁山泊へと回る。扱
 宋江は已に劉唐を別れて乃ち心中小悲ひる。あくも是下友ホが着
 著るもあふ。忽ち天事と惹出は。さ小天事いと急むひて。危き地佐と
 脱れ一とを脱び之と。又晁蓋もが事と暗小思ひる。彼十一人の豪傑も
 いんぞ仍のぞく大ひに威勢とあふ。晁に梁山泊。要害双る。名地と

つる果してまゝに虚しくぬよと感歎して往る如ふ忽ちくそ。昔後に
 夢の如く云々の押司は実方に往るの如く何れ我敵は是なりぬぞ。
 宋江とて夢を以て同してこれと看るは是れ閻婆は是宋江不慮の
 難とて惹出は始末次の巻小具あり

閻婆とて又虔婆とも申す。水滸傳舶来の本も毎回詩章後見女の
 耳小遠れゆ多譯本は省けり。然れを呼保義宋江後に梁山泊小
 入る第一卷の豪傑と云ふは巻第二十一回之首小申す古風一首と云ふ載
 宋朝運祚將傾覆 四海英雄起寥廓 流光垂象在 山東
 天固上應三十六 瑞氣盤旋繞 鄆城 此郷生降宋公明
 神清貌古真奇異 一舉能令天下驚 幼年涉獵諸經史
 長爲吏役決刑名 仁義禮智信皆備 曾受九天玄女經

江湖結納諸豪傑 扶危濟困恩威行 他年自到梁山泊
 綉旗影搖雲水濱 替天行道呼保義 上應玉府天魁星

新編水滸畫傳卷之拾八畢

